



**INNOVATOR'S
GARAGE**

Garage Nagoya Topics

ナゴヤ イノベーターズ ガレージ(愛称:ガレージ ナゴヤ)のスタッフが、ガレージ ナゴヤの活動やイベント、そこで活躍する人々を紹介するコーナーです。

Report 1



**2020.10.2 Fri. ~ 2021.3.19 Fri.
ビヨンドザボーダー 第4クール**

ビヨンドザボーダーは、中部の将来を担う若手を「イノベーションドライバー」として育成し、起業や社内ベンチャー、既存事業の改新などを推進することを目的としたプログラムである。2020年10月2日より第4クールを開始し、さまざまな業種から23名の受講生が集まり、価値創造に向けた活動を続けている。

11月17日には、プログラムの一環として、名古屋市・栄の街中でフィールドワークを実施し、10年後の社会環境変化を想像しながら、生活者の潜在的な課題や本音を掴み、新たなビジネスにつなげる行動観察を行った。



VUCA(変動性・不確

実性・複雑性・曖昧性)と呼ばれる予測不能な時代において、世界で起きている変化を理解し、経営に生かすためには、ユーザーのニーズにもとづきアイデアを創出するデザイン思考が重要であることを学んだ。続けて、さらなる顧客の深層要求となり得る独創的な発見や新たな解決施策について活発な議論を展開した。

プログラムを重ねるにつれ、自らビジョンを持ち、新たなビジネスで価値を創出するマインドへと変化が見られる。真剣なまなざしで活発に対話する受講生の姿がとても印象的だ。現在は、新たなビジネスプランを構築するため、チームごとにチャットツールやWeb会議ツールを駆使してコミュニケーションを取り、ビジネス共創に取り組んでいる。3月19日にはチームごとに磨き上げたビジネスプランを持ち寄り、最終成果発表会を開催する。

**4月
開講**

イノベーション人材育成プログラム

「ビヨンドザボーダー」

意欲あふれる若者たちよ集まれ!

最終締切
3/26

ナゴヤ イノベーターズ ガレージでは、中部圏におけるイノベーションを活性化させるため、自らの力でイノベーションを実現する人材を育成するプログラム「ビヨンドザボーダー」を開催しています。ビヨンドザボーダーは、共通基盤技術の理解・深化、未来社会の構想、異分野融合による共創を通じて、自らの力で新たな価値の創造を推進し、ネットワークを広げていくプログラムです。

第5クールは、2021年4月に開講し、2021年9月まで全12回のプログラムを予定しています。起業や社内新規事業など、イノベーションに関心のある方は第一歩を踏み出してみませんか？プログラムの詳細は、<https://garage-nagoya.or.jp/program/p3144/>をご覧ください。

問い合わせは
こちら

E-mail: beyond@garage-nagoya.or.jp TEL: 052-253-9758
担当: ナゴヤ イノベーターズ ガレージ 山本




**2020.11.12 Thu. & 12.11 Fri.
IGES (アイジェス)**

**2020.12.25 Fri.
MUSIC in the GARAGE!**
Report2 IGES (アイジェス: Innovator's Garage Entrepreneurs' Society)
参加者: 132名

2020年度からスタートしたIGESでは、メンターの一人である(株)スピード代表取締役の岩木勇一郎氏が、学生に向けて最新のビジネス動向の情報提供や起業家教育を実施している。今回は、金城学院大学国際情報学科と滝高等学校ビジネス部をナゴヤ イノベーターズ ガレージのスタッフとともに訪問した。

岩木氏は、最新のデジタルコンテンツ業界のトレンドやこれまでの歴史を具体的な事例をあげてわかりやすく講義し、起業家や新規事業開発を支援するナゴヤ イノベーターズ ガレージの活動をあ



わせて紹介した。その後、「デジタル技術を活用した、学生がイノベーション創出拠点を使いたくなるビジネスプラン」を考えるワークショップを実施した。

金城学院大学の学生からは、ビジネスアイデアとともに「社会が今までとは違う方向に動いている中で、私たちの世代が新たなビジネスや産業を創出していくことが大切だと実感した」など、多くの意見が出された。

滝高校では、「起業家の育成は、学生への認知の問題なので、どのように認知させていくか」という課題感の共有や「学生を対象としたXR(現実と仮想を融合するさまざまな技術の総称)の体験型コンテンツ」など、いろいろな意見やアイデアが交わされた。

Report3 Swing'n Christmas Jazz 2020
参加者: 38名

今回は、愛知県立芸術大学の後援のもと、ジャズ・ミュージシャンの風呂矢早織ピアノトリオ(写真左から、風呂矢早織氏: ピアノ、菅原森央氏: ベース、やまだよしひさ氏: ドラムス)を迎えてクリスマスに開催した。

ジャズは、即興演奏(Improvisation)を特徴とする音楽ジャンルであり、「創造性」や「オリジナリティ」など、ナゴヤ イノベーターズ ガレージの目指すイノベーション



創出と親和性の高い要素を多く持つ。演者は、「ジャズも経営も、突き詰めるほどに違う世界が観えてくるのではないだろうか」と参加者に問いかけ、豊かな即興を交えながらオリジナル曲をはじめ、クリスマスソングやジャズの名曲などを演奏した。

コロナ禍で観客を入れての演奏会の機会が少ない中、この企画も半年間延期になっていたが、聖夜に40名近くもの聴衆に恵まれ、会場は暖かい音楽に包まれた。参加者からは、「コロナと寒さと1週間の疲れで凝り固まっていた心身がほぐれた」「オリジナル曲に感動した」などの感想が寄せられた。

次回は3月5日に弦楽四重奏のコンサートを開催する予定である。

2020.11.24 Tue.
フューチャーコンパス 第20回 講演会

演題「デジタルとソーシャルで行こう」

参加者：会場 約20名、オンライン 約70名

【講師】法政大学大学院 教授／一橋大学イノベーション研究センター 名誉教授／
(一社)Creative Response-Social Innovation School 学長 米倉 誠一郎 氏

プロフィール／一橋大学社会学部(1977)・経済学部卒(1979)、同大学院社会学修士(1981)、
ハーバード大学博士(PhD、1990)。専攻は、イノベーションを中心とした企業の戦略や組織の歴史的研究。
2020年1月にソーシャル・イノベーションとSDGsに特化した社会人学校を設立。



【講演要旨】

1. デジタル・パワー

ビッグデータ、IT(AI)、金融の3要素を掌握するデジタル・プラットフォームがマーケットを席捲し、この20年間でビジネスのあり方が大きく変化した。プラットフォームの持つデータを使えば、効率的に販売ターゲットにアクセスし、高い成果を上げられる。ユーザー側にとっても、提供されるサービスにより利便性が向上したが、同時に、ビジネスの生み出す負の側面である経済的格差も拡大している。

2. 日本の明るい未来への手がかりは、 ソーシャル・イノベーション

一見ビジネスとして成立しないように見える、貧困、格差、不平等などの資本主義が内包する矛盾点の解消を、ビジネスで実現しようとする動きが広がっている。ムハマド・ユヌス氏(2006年にノーベル平和賞を受賞)の創設したグラミン銀行がその一例である。

米国のスタンフォード大学では、NPOやNGOから持ち込まれる途上国の社会課題などを取り上げ、解決するためのビジネス・デザインを体系的に学ぶプログラムを提供している。世界は大量生産、大量消費、大量廃棄の時代から、どのようにして社会課題を解決するかに主眼を移している。

日本は近年の産業構造の変化やデジタル化に出遅れ、経済的な視点での成長鈍化は明白である。しかし、例えば自然エネルギー利用や省エネなど、技術力を生かした課題解決型ビジネスにおいては、世界に対してさらなる貢献ができる可能性がある。

3. 難しい時代だからこそ、楽観的に行こう

日本人は戦争や災害を通して危機的状況に対応する強いレジリエンスを証明してきた。日本を「世界に日本があつてよかった」と思われるような、グローバルな持続的成長を担う存在にしていきたい。そして、これからのソーシャル・イノベーション実現には、デジタル技術が欠かせないであろう。

難しい時代だからこそ、すでに日本が持つ良い側面を最大化し、楽観的なマインドを忘れずに世界へ飛び出し、チャレンジしてほしい。

CR-SIS (<https://web.cr-sis.com/>)

クリエイティブ・レスポンス・ソーシャル・イノベーション・スクール(学長:米倉誠一郎氏)は、ソーシャル・イノベーションを推進する人材育成を目的に設立された。日本の企業人に蓄積された「経営資源を多重利用して社会課題解決を目指す。